

NPO法人農業情報総合研究所 12月レポート

2013.12月3日（火）世田谷区立京西小学校に出前授業に行ってきました。

世田谷区立京西小学校3年生 93名、教員5名らを対象に出前授業を担当させて頂きました。

- ・日時：12月3日（火）①13：45-15：20
- ・場所：世田谷区立京西小学校 多目的教室
- ・社会科の授業
テーマ：「町のひとびとのしごと」～世田谷農業の特色、農家さんの願い・思い～
- ・授業全体のお話：植村春香 パワーポイント（写真）で説明
- ・協力：農業戦隊アグレンジャー隊員：東京農業大学 学生13名、明治大学 学生1名
東京農業大学教授1名、NPO法人農業情報総合研究所 研究員1名、世田谷区都市農業課
- ・出前授業の内容
以下、4つの項目について写真使って説明を行っていききました。
 - ・世田谷農業の特色
 - ・農家さんのインタビュー：苦労、努力していること、こだわり、思いを紹介
 - ・世田谷農業の現状
 - ・世田谷農業の今後



大学生のみんなは、農業、食について勉強し情報を発信している農業戦隊アグレンジャーという設定です。子どもたちに、この授業を聞いて農家の仕事、世田谷農業、食について興味を持ってもらい家族に伝えてもらうことを目的としています。

子どもたち全員が大きな声でアグレンジャーと呼ぶと大学生全員登場！子どもたちに挨拶すると、みんな大喜びです。大学生たちには各テーブルに座ってもらい、一緒に授業を聞きながら子どもたちをサポート。みんな、あっという間にアグレンジャーと仲良くなってくれたようです。

アグレンジャーに促され、質問するとたくさんの子が手をあげてくれます。例えば、畑の写真を観察してみよう。どんなことがわかりますか？といった質問には、葉っぱの色が違うものが作られている。お家があるなど元気よく答えてくれました。授業のおさらいとしてアグレンジャーから、野菜クイズの出題もありました。

最後の質問コーナーでは、「子どもはどんな野菜が嫌いか？」という言う質問に、何が嫌いか子どもたちに手をあげてもらいました。子どもたちは自分から、「この野菜が食べられるか聞いて。聞いて。」と声をかけてきます。にんじん、たまねぎ、ゴーヤ、トマト、みんな思っている以上に野菜を食べているようです。一番手が上がらなかったのはナス。子どもたちは、ナスが苦手なことがわかりました。

地場野菜に興味を持った子どもからは、「大蔵大根は何人ぐらいの人が作っていますか？」、「大きさはどのくらいですか？」と質問がありました。「作るのに一番大変な野菜は何ですか？」といった質問にアグレンジャーから、「どんな野菜も作るのは時間がかかり大変だ。」という説明に、子どもたちは真剣な表情で聞いていました。



最後は、みんなが授業を聞いてくれたお礼に3年生全員を「せたがやジュニア アグレンジャー」に認定。アグレンジャーからシールを子どもたちにプレゼントしてもらいました。

このシールは、東京農業大学の学生がデザイン、出前授業の前日にプリントアウトして作ってくれました。デザインは東京農大の大根踊り、世田谷の大蔵大根をイメージして考えてくれたものです。

子どもたちの感想文には、「楽しかった」、「すごい勉強になった」、「野菜のことをたくさん知ることが出来た。」、「スライドがわかりやすかった。」、「農家さんが大変なことがよくわかった。」、「農家さんは苦情がきて大変だ。」、「イチゴにはミツバチが必要だなんて知らなかった。」、「大蔵大根を復活させた農家さんがすごい。」、「アグレンジャーがいろいろなことを知っていてびっくりした。」、「もっと教えてほしい。」、「アグレンジャーにまた会いたい。」、「アグレンジャーのようになりたい。」と、感想を書いてくれました。

大学生の協力で、子どもたちは楽しく授業を受けてくれたようです。この授業を通じて子どもたちに、地域の農業、食について伝えることが出来ました。授業に関わってくれた大学生も、子どもたちの交流、キャンパスがある世田谷の農業のことを知ってもらう機会へとつながりました。

授業終了後、先生方から世田谷区の直売所マップ、大蔵大根の資料コピーを子どもたちに配布。出前授業の様子は京西小学校のホームページに掲載して頂きました。